

小林光恵＋ 宮子あずさ

[マンガ] 鈴木直子

ナース川柳
看護婦
七転八倒
看



幻冬舎文庫

かんごふしちてんぱつとう
看護婦七転八倒

こばやしみつえ みやこ
小林光恵 宮子あずさ

平成12年6月25日 初版発行

発行者——見城徹

発行所——株式会社幻冬舎

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-9-7

電話 03(5411)6222(営業)

03(5411)6211(編集)

振替00120-8-767643

印刷・製本——大日本印刷株式会社

装丁者——高橋雅之

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担で

お取替致します。小社宛にお送り下さい。

定価はカバーに表示してあります。

Printed in Japan © Mitsue Kobayashi, Azusa Miyako 2000



幻冬舎文庫

ISBN4-87728-876-7 C0195

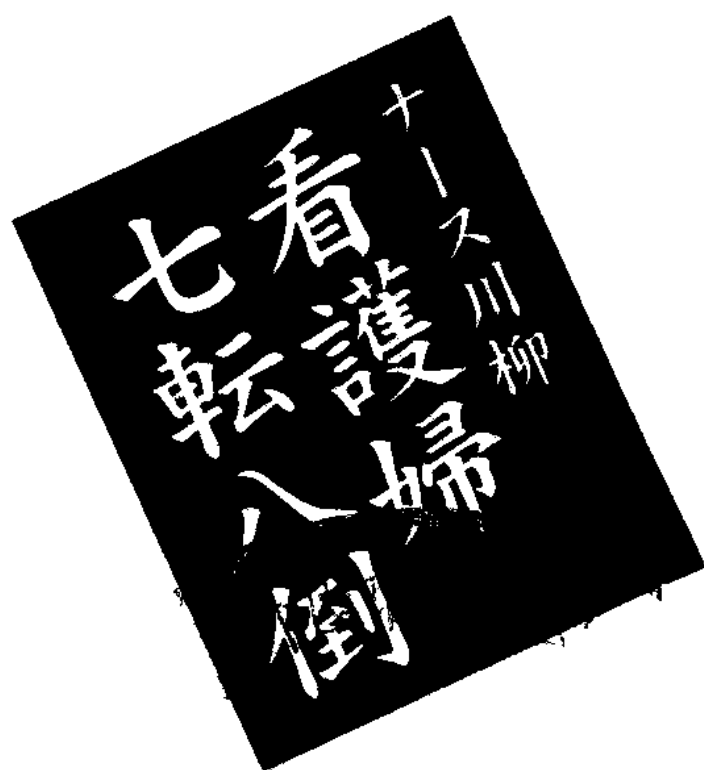
こ-5-5

ナース川柳
看護婦七転八倒

小林光恵　宮子あずさ



幻冬舎文庫



ナース川柳 看護婦七転八倒 目次

はじめに

8

第一章

看護婦七転八倒

11

第二章

我思う故に看護婦

51

第三章

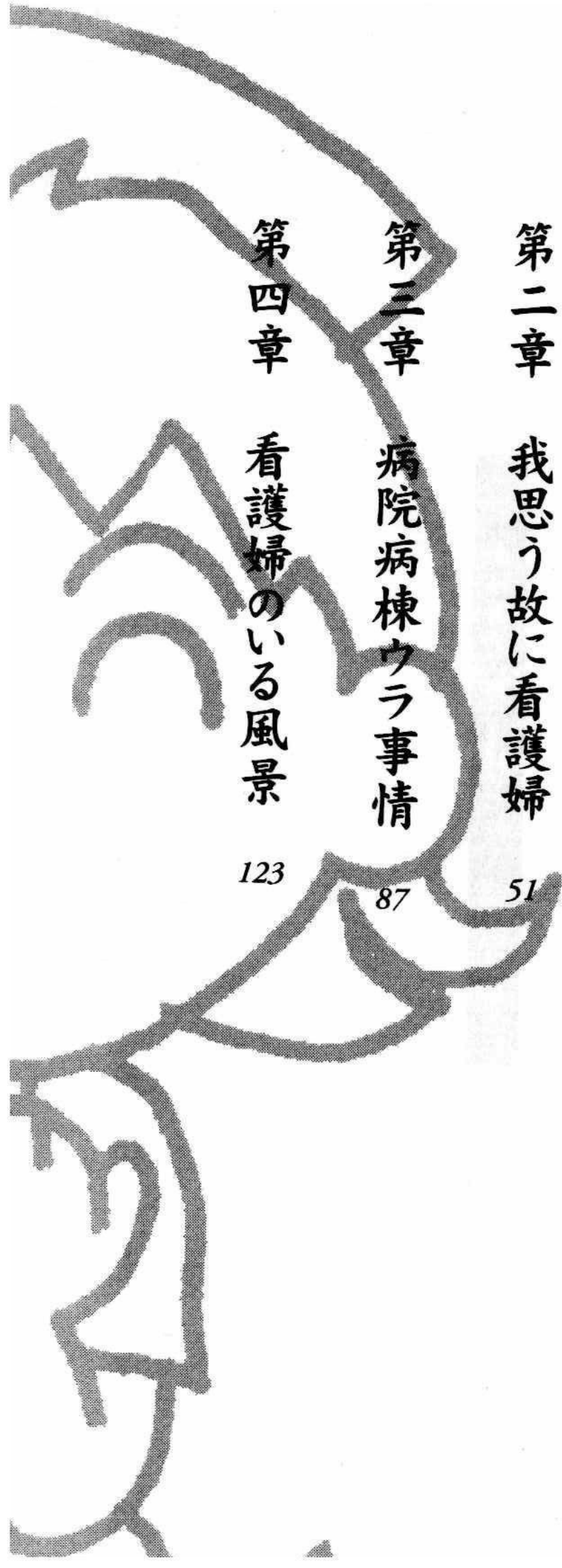
病院病棟ウラ事情

87

第四章

看護婦のいる風景

123



エッセイ

ハサミと言葉は使いよう

小林光恵

40

「性善説」と「責任感」

宮子あずさ

79

ドラマは同時に起きている

小林光恵

117

絵になる仕事

宮子あずさ

151

解説 清水ちなみ

160

はじめに

いい気分で働き続けるために、看護婦たちは自分なりの処方箋をいく通りか持っています。疲れた心身を癒すために、即効でありながら穏やかな処方を絶妙なさじ加減で工夫します。処方の内容は、旅行、デート、ひたすら眠るなどさまざまありますが、もっと気軽に親しみやすいのが川柳。

「看護婦が川柳を？」と、ちよつと意外に思われるかもしれませんが、短文表現は、医療という世界で働く看護婦たちにとって、実はかなり身近なもの。医師への連絡やカルテの記載は、「短く適切に」がモットーです。

例えば「血圧上昇182/110mmHg、吐き気伴う」、わずかこれだけの文章で患者さんの苦痛や今後の病状変化を推し量ります^お。ですから、仕事中

だけでなくプライベートでも頭の中を短文が行ったり来たり、自然に川柳的思考が展開されているわけです。

今回の川柳は、現在休止中のナースのネットワーク「エヌスリー（小林光恵代表）」が発行した機関紙『AKE気分』で募集したものを中心に載せています。「川柳特集」は、ネットワーク初めての試みで不安もありましたが、作品が集まってみれば、そんな心配があったことさえ忘れてしまうほど、選定のは大いに盛り上がりました。

しきりにうなずいたり笑い転げたり、全国の看護婦・士たちが繰り広げる「十七文字、一本勝負」の愉快天国に見事にいざなわれてしまったのです。川柳の専門的な流儀にこだわらず、自由奔放に表現された看護の情景や感情が、ときにはダイレクトに、ときにはじわじわとこちらに伝わってきます。共通のツボをもつ心地よさを感じました。

本文では、小林光恵さんと宮子あずきさんが作品の講評を担当しています。この二人の巧みな表現や感性豊かな解釈は、作者の個性を際立たせ、おもしろ

さを倍増させてくれます。また、川柳のシーンを描いた鈴木直子さんの一コマ & 四コマも「こりや一本とられたわい」と、思わず膝をたたくほどに絶妙な仕上がりです。

病院で垣間見た看護婦の不思議な行動や、解き明かしたい彼女たちのプライベート・タイム。一〇五本の川柳と軽快な講評&マンガで存分にお楽しみください。

エヌスリーネットワーク 片野裕美



第一章
看護婦
七転八倒

たのむから　じっとしてくれ　便が散る

海貴

下痢をして、オムツから便が流れ出ている患者さん。排便の苦しさのために体や手を必死で動かして、便がシーツやベッド柵に……。
「動かないで」、私の心の叫びです。

宮子・小林　わかりますねー（笑）。

宮子　直接ビジュアルに訴える作品です。患者さんのオムツを開けたときに、便がこんもりとその中におさまっていると、それだけで幸せな気分になります。我ながら単純やねー（笑）。

小林　お通じがゆるいと、オムツを外したときに、あらぬ方向に飛び散ってしましますから、要注意の瞬間ですね。まさに、「たのむから」と言いたくなります。

コール鳴り　ダッシュで行けば 「歌、うとうてくれ」

カンゴロボ1号

患者さんからのナースコールに急いで病室へ飛んでいった。「何てことはないねんけど、歌、うとうてくれ」。倒れそうでした。大部屋の患者さん、柴田さんは誰にも止められへん。

宮子　きつとこういう患者さんは愛されますね。その時の忙しさによって「今言わないでくれ」と思うかも知れないけど。後から大笑いしちゃうよね。これぞ看護のダイゴ味です。



蓄尿瓶 洗う心は

ナイチンゲール

ナイチンゲールの再来

蓄尿瓶を洗っているとき、とても惨めな気持ちになることがある。尿が顔や手に飛び散ったりすると「こんなことをするためにナースになったわけじゃない」なんて思ったりして。でも、結局は、「これも患者さんのため」と、ナイチンゲール精神に支えられて頑張ったりしています。

小林 私の場合、「○○さんのためならエーソヤコーラ」と歌いながらやってきましたよ。労働歌がほしくなる業務です。ちょうどその日に彼とのデートの予定があったりするんですよ。

道のゲロ 白衣を着れば 手で受ける

居酒屋ナース

師走の季節、通勤途中の道端の吐物を見て、朝からオエツと吐きそうな気分。でも、数分後、白衣を着ると、突然の患者さんの吐物を手で受けていたりして……。もちろん気持ち悪いなんて感じない。白衣の威力って凄い!?

宮子 日勤の前日に飲んで、帰り道に吐き、翌朝そのお宝を見ながら出勤した後輩がいます。「しつかり見ちゃいましたよ。コーンが残っていました」と、報告してくれました。道のゲロも、自分のものだとは平気のようです。

